



元気通信

ブダペスト日本人学校

学校だより

平成28年 6月29日号

【ふれあい大運動会の会場について】(運動会担当 大久保・太田・日野)

昨年度ふれあい大運動会にご参加された方はご存知のことと思いますが、リレーなどの種目はトラック競技場を利用し、それ以外の種目はサッカー場というように、当日、会場を移動しなければならない状況となりました。そこで運動会会場を見直し検討した結果、本年度の会場を以下のように決定いたしました。詳細については、運動会通信にてお知らせ致します。尚、雨天時は下記の敷地内にある体育館となります。

平成28年度ふれあい大運動会会場：American International School of Budapest
(2094 Nagykovácsi Nagykovácsi út 12)

【中学部夏期合宿】(中学部主任 佐藤)

天候に恵まれ、ショプロン周辺での2泊3日(6月15日～17日)を皆で協力して過ごすことができました。夕べの集いでは、それぞれ学年で工夫された出し物が演じられ、とても盛り上がりました。また、総合的な学習の時間で学習してきたピクニック計画の現場に立ち、自分たちの考えを発表するミニ集会を開くことができ、よい現地学習の機会ともなりました。



【本の読み聞かせについて】(図書担当 雨森)



27日(月)は、図書ボランティアの方々による今年度2回目の『本の読み聞かせ』が小学部の各学級でありました。図書ボランティアの方々の読み聞かせに、「次は、どうなるのかな?」とドキドキワクワクしながら、子ども達は本の世界に引き込まれていました。次回も、どんなお話が聞けるのか楽しみです。

【水泳集中指導について】(体育担当 原田)

10日に、今年度の水泳集中指導が終わりました。各コースに分かれて自分達にあった指導を受けることができました。90分という長い時間プールに入り、色々な泳ぎ方でプールを往復し、6回の水泳指導が終わる頃には、どの子どもも授業が始まった頃と比べると泳力が向上していました。今年学んだことは来年までしっかりと身につけていることでしょう。夏休み中に一度でも泳ぐ機会があるといいですね。



【PTAバザーのお礼】(PTA担当 太田)

6月11日(土)13時からPTAバザーが行われました。今年度も、非常に多くの商品が並び、多くの方々に来ていただきました。当日参加して下さった方、また事前の準備から当日の片付けまでお手伝い下さった方々に、厚くお礼申し上げます。なお、当日の売り上げは、先回の元気通信にもありましたように、424,100円となりました。寄付していただいたものを、教材や遊具など児童生徒の学習活動に還元していきます。本当にありがとうございました。

【PTAよりジュースの差し入れ】(PTA担当 太田)

PTA活動の一環として、小学部・中学部の夏期合宿前に、各々がジュースをいただきました。職員を代表して小学部・中学部主任が受け取り、小学部については、今週の合宿中に配布いたします。また、中学部ではすでに生徒に配布し、合宿中にもらったジュースをおいしそうに飲む生徒の姿が見られました。本当にありがとうございました。

【研究授業① 中学部 総合的な学習の時間】(中学部3年担任 佐藤 教科領域研究主任 大久保)

中学部では、夏期合宿で訪れるショプロンで起こった「ピクニック計画」を現地理解教育の1つとして総合的な学習の時間で取り上げることにしました。ピクニック計画とはどんなことであったかを知るために、第2次世界大戦後のハンガリーとその周辺諸国が、東西冷戦の中、どのように国を動かしていったかを映像も使いながら、時間をかけて学びました。

研究授業では、単元のまとめとして、「ピクニック計画は一步先に民主化に踏み切ったハンガリーの人たちの手助けで、東ドイツの人たちが西側への脱出に成功した事件である。」ということを知り、「国民が自分の国を捨てて逃げださなくてもよい国とはどんな国か。」を話し合いました。歴史の事実を根拠にして自分の考えを持ち、個人の思考を補充、深化させるためのグループ活動を設定しました。(1)個人で考える。➡(2)自分の考えを付箋に書き込み、グループで出し合う。➡(3)グループで話し合い、関連するものをつなぎあわせて整理し、考えをまとめる。➡(4)グループで出された考えを発表する。この流れの中で、人と自分の考えを比べながら、どんな国をつくっていくことが大切かを考えました。今回取り上げた題材は、自分たちが実際に現場に立つことができる場所で起こった事件についての学習ということで、意欲的に取り組めていたと感じました。また民主的な国を背負って立つ生徒たちにとって社会主義国の変遷を学ぶことは有意義であったと思いました。

本年度の研究テーマの副題は「教材開発に焦点を当てた、学び合いのデザイン」です。昨年度の「学び合い」を引き継ぎ、子どもたちの中に学び合いを生むことができる教材開発をしていくことをねらいとしています。

今回、中学部の総合的な学習の時間で、現地教材を活用した単元を開発しました。子どもたちは『逃げ出さなくていい国』とはどんな国なのでしょうか。』という問いに対して、自分の意見を複数書き出すことができていました。夏期合宿で現地を訪れることができるため、子どもたちは意欲を高めて取り組むことができたのではないかと考えられます。このことから、教材として「①身近なもので、体験的に学ぶことができるもの」「②考えを持つ上で、複数の根拠(証拠)を出せるもの」この2点が教材開発のポイントであることが明らかになりました。

一方で、授業の流れとして、冷戦の歴史を読み解く中で、「資本主義」と「社会主義」を学んできたのですが、「社会主義のデメリット」に着目した授業構成であったため、偏った見方をする子どもが多かったことが課題として残りました。「正しい」か「正しくないか」で結論を出すのではなく、双方のメリット・デメリットを基に、より良い考え方を導き出すことが「学び合い」です。

したがって、「子どもたちに複数の視点を与えられる教材の選び方や扱い方」

この点が、次の研究の重点となっています。各担任で日々の取り組みの中に創意工夫をこらしていくと同時に次回研究授業(1・2年生活科…日原)に向けて、組織として取り組みます。

【児童生徒の下校・保護者の皆さまのご来校について】(PTA担当 太田)

6月17日(金)より、ヴィラーニョシュ校校舎の正面玄関を通ることができなくなりました。そこで、8月末まで児童生徒の下校時は緑門を利用することとなります。また、保護者の方々がご来校する際は、緑門に設置されたインターフォンをご利用ください。職員が緑門の開錠に向かいます。宜しくお願い致します。